

広島県におけるナラ枯れ被害について

1 要旨・目的

令和7年度のナラ枯れ被害の調査を行い、取りまとめた集計結果を報告する。

2 現状・背景

ナラ枯れとは、ナラ類等（特に広島県ではコナラ、ミズナラ）の樹幹にカシノナガキクイムシが入り込むことでナラ菌が樹幹内で伝播し、根から水を吸い上げる機能が弱まることで枯死する現象で、主に7～9月頃に被害が確認される。本県におけるナラ枯れ被害は平成18年度に初めて確認されており、平成22年度に被害量が一度ピークを迎えたのち減少傾向が続いていたが、令和6年度に大幅に増加した。令和7年度も依然として被害量が多いものの、前年度に比べ減少している。

3 概要

(1) 調査対象

県内の広葉樹林

(2) 調査期間

令和7年8月1日から令和7年11月30日まで（集計期間を含む）

(3) 調査方法

前年度被害が確認された区域や市町等から当年度被害の情報提供があった区域及び、防災ヘリを活用した空中探査により確認した区域を元に調査ルートを選定し、国道や県道沿いからナラ枯れの被害木の本数を計測する。

(4) 調査結果

令和7年度のナラ枯れ被害は、昨年度の被害量から大きく減少し、7,318本（昨年度被害量16,786本）、20市町（昨年度被害市町22市町）で被害が確認された。

(5) 被害量減少の要因

被害を受けやすいナラ類の老齢の大径木がこれまでの被害により一定程度減少したことが、令和7年度の被害量減少の一因と考えられる。

表1 広島県内におけるナラ枯れ被害本数の推移（直近5か年）（単位：本）

区 分	直近5か年				
	R 3	R 4	R 5	R 6	R 7
広 島 市	235	150	562	217	60
呉 市	0	0	45	670	326
竹 原 市	0	50	60	43	85
三 原 市	0	1	49	358	665
尾 道 市	0	97	680	1,403	688
福 山 市	0	11	306	1,039	552
府 中 市	0	196	570	1,305	502
三 次 市	25	254	186	1,292	334
庄 原 市	359	701	1,792	8,099	2,865
大 竹 市	0	0	8	55	5
東広島市	0	11	95	109	59
廿日市市	645	1,630	865	544	147
安芸高田市	125	37	100	2	6
江田島市	0	0	2	51	66
府 中 町	0	0	0	0	0
熊 野 町	0	0	3	22	3
海 田 町	0	0	0	3	0
坂 町	0	0	31	15	0
安芸太田町	179	175	259	291	141
北広島町	180	203	0	29	31
大崎上島町	0	10	12	53	15
世 羅 町	7	11	40	251	231
神石高原町	7	116	208	935	537
合 計	1,762	3,653	5,873	16,786	7,318
(参考)被害材積 (千m ³)	0.8	1.7	2.7	7.7	3.4

(6) 全国的な被害状況

ナラ枯れ被害は全国的に拡大傾向にあり、対前年度比 108%で増加しているが、中国地方での被害量は減少している。

表2 中国地方などのナラ枯れ被害量（被害材積）の推移（単位：千m³）

区分	広島県	岡山県	山口県	島根県	鳥取県	全国
R 5	2.7	21.5	0.4	1.0	1.0	130.3
R 6	7.7	22.7	0.6	1.1	0.6	186.3
R 7	3.4	19.1	0.3	0.8	0.4	203.7
対前年度比	44%	84%	55%	70%	63%	108%

(7) 被害対策の実施状況

ひろしまの森づくり県民税を活用して、被害木への対策及び予防に資する取組を実施している。

ア 被害木への薬剤くん蒸

カシノナガキクイムシを駆除することが効果的であることから、被害木への薬剤くん蒸が一般的に行われており、本県では平成 22 年度から実施している。

表 3 広島県における直近 5 か年の実施状況（薬剤くん蒸）（単位：本、千円）

年 度	実施市町	事業量（本）	事業費（千円）
R 3 実績	廿日市市、安芸太田町	131	839
R 4 実績	安芸太田町	86	635
R 5 実績	安芸太田町	129	873
R 6 実績	安芸太田町	182	1,467
R 7 見込	安芸太田町	200	1,656

イ 広葉樹林の更新と伐採木の利活用

ナラ枯れは、高齢化したナラ類が被害を受けやすいことから、庄原市がナラ枯れ被害木を含む広葉樹林の予防的な伐採と更新状況の調査、伐採木の利活用に向けた取組を実施している。

(8) 今後の対応

ア 被害調査の実施

これまで被害が多かった区域や新たな情報提供があった区域を中心に、防災ヘリを活用した空中探査や地上からの確認など県による被害調査を継続的に実施する。

イ 情報共有

区域ごとの被害状況が分かるよう整理の上、市町への情報共有や県 HP への掲載を行う。

ウ 被害対策の促進

ひろしまの森づくり県民税を活用した薬剤くん蒸による被害対策について市町を支援するとともに、事業の周知徹底などにより実施促進を図る。

エ 広葉樹林の更新と伐採木の利活用

令和 5 年度から広島県緑化センターにおいて、伐って、使って、萌芽更新により若返らせるモデルの構築に取り組んでいる。現在、モデル伐採地における更新状況の調査を実施しているほか、今後は広葉樹林の有効活用を図るため、ドローン空中写真を活用した森林資源の解析を進める。